

令和6年度保育学科，服飾美術学科

試験問題

国語

(試験時間60分)

受験番号	
------	--

受験上の注意

- 1 机の上には、「国語」の「問題冊子」1部と「解答用紙」1枚とが配付してあります。

「始め」の指示があるまでは，表紙の「受験上の注意」を読むだけで，「問題冊子」や「解答用紙」に手を触れてはいけません。

- 2 「受験票」を机の上に置き，筆記用具を準備しなさい。

「下敷き」の使用は認めません。

- 3 これは「国語」の試験で，試験時間は「60分」です。

- 4 「始め」の指示があったら，「問題冊子」と「解答用紙」に「受験番号」を記入してから，解答にかかりなさい。

解答はすべて「解答用紙」の所定の欄に記入しなさい。

- 5 印刷の不鮮明な箇所があったら，手を挙げて指示を受けなさい。

- 6 「やめ」の指示があったら，直ちに鉛筆などを置き，「受験番号」の記入漏れがないかどうかを確かめなさい。

- 7 試験開始後30分までは退室できません。

- 8 試験中の用便や試験開始30分以後の退室などには，手を挙げて指示を受けなさい。

問題一 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

豊かさとは自分の身体が感じ取るもの⁽¹⁾です。そうだとすると、大事なのは、今、自分の身体が何を感じ取っているのかを正確に知ることです。

にもかかわらず、現代人の多くは自分の身体が存在しないものであるかのようにフルマ⁽⁷⁾っている。これでは身体がせつかく感じ取る⁽⁷⁾うとしているものを閉ざしてしまっています。

パリ旅行に行くとなれば、エッフェル塔もルーブル美術館も見たいから、ルーブルに掛けられる時間は一日しかない、モナ・リザとミロのビーナスとあれやこれや見て……とガイドブックを片手に計画を立てる人も多いでしょう。

気持ちは分かりますが、ともすればせつかくの旅行が「A」⁽⁴⁾になってしまいがちです。見たことの証明書のような写真を撮って、SNSに上げることが目的化してしまい、そこにはカンジンの「体験」がありません。

(中略)

慣れるというのは人間の特性ですが、それは不幸の原因でもあります。

豊かさを感じるという点においても、慣⁽²⁾れることによつて失われることがあるからです。

それと同時に、現代は情報化社会で、何事も自ら触れる前に情報を得られるようになりました。それは便利である反面、「初めて」の瞬間を人から奪うことにもなっています。

先程お話しした旅行でもそうですが、人との出会いにおいても同じです。SNSなどのおかげで、事前に略歴やその人となりを

下調べすることが比較的簡単になりました。本来、初対面というのは緊張するものです。その人がどういう性格の人なのか、どのような考えの持ち主なのかを会話や見た目を通して感じ取らねばなりません。

事前に情報があればそうした緊張はないかもしれませんが、代わりに先入見でしかその人を見ることができなくなってしまう。すると、本来気が合う相手であつたかもしれないのに、考え方が違う人として接することで、その機会を失ってしまっているかもしれないのです。

これを私は「**B**」と呼んでいます。事前に情報を得て、自分にとって期待する価値をもたらしてくれるものかどうかを査定してしまうのです。

人と出会っても、その人は自分に利益をもたらしてくれるのかどうか、楽しませてくれるのかどうかだけに意識が行ってしまう。そうした人間関係は長く続きません。

お笑い芸人を見る視線も同じです。ネット記事のコメント欄などを見ると、「この芸人の何が面白いのか?」「ここがダメだ」といった記述をよく見かけますが、まるでみんながお笑いを査定して一家言持たないといけな⁽⁷⁾いかのようです。

けれども、「笑かしてくれるのかどうか」と思いながら、(悪い意味での)批評家スタンスで見るのは、視聴者のレベルが上がったのだと単純に言えるのでしょうか?むしろ、私たちは楽しむチャンスを失っているのではないのでしょうか。

私たちは大人になるといういろいろなことを経験し、多くのことを知った気になっています。自分は何も生み出していないにもかかわらず、他人がつくつたものを評価することで満足してしまう。いわば、「**C**」です。

ドイツの哲学者ニーチェは、そうした人々を、価値創造せず、すでにつくられている善悪の基準に縛られているだけだと批判し

ました。

子どもの頃を思い出してみると、多くの人にとって小学校時代の六年間は、直近の六年間よりも断然長く感じられたはずで⁽³⁾す。小学校の担任やクラスメートの名前は鮮明に思い出すことができますが、中学高校となると次第に記憶がキハク⁽⁴⁾になってくるのではないのでしょうか。大人になれば一年があつという間に過ぎるようになり、五十代ともなれば五年前と三年前の区別もあやふやです。

一説として、人生全体が長くなるほど一年の比重が小さくなるからだとも、細胞の代謝⁽⁵⁾の速度が影響を与えているからだとも言われますが、私の仮説は、人間の時間感覚に影響を与えているのは「初めて」の実感である、というものです。

小さい頃は、毎日が新鮮で豊かだったはずで⁽⁶⁾す。一日のうちにいくつもの新しい体験があり、その人の中に色濃く残ります。小学校に上がることは、大学入学とはくらべものにならないほど大きな事件です。初めての漢字や足し算・掛け算、すべてのことが目新しく新鮮で、ドキドキする感覚に包まれています。

⁽⁴⁾ 私自身にもそのような記憶があります。私の通っていた静岡県の小学校では、四年生になると富士山五合目まで行つて雪を見よう、という「雪見遠足」という行事がありました。静岡は比較的暖かく雪が降ることが少ないので、子どもたちにとってはものすごく楽しいイベントでした。

私も例外ではなく、友人と一緒にそりを作ろうということになりました。私の実家は家具製造業を営んでおり、家には木がたくさんありました。友人と盛り上がって木をふんだんに使ったゴウセイ⁽⁵⁾なそりを作り上げ、それを遠足に持っていきま⁽⁶⁾した。

ところが、実際に雪の上で遊んでみると、重すぎてちっとも滑りません。となりではビニール袋をそり代わりにしている子がい

て、そちらのほうが断然スピードが出ていたのです。私たちは愕然としたわけですが、そんな昔のことであっても今、鮮明に思い出すことができます。

そうした子どもの記憶がよく表現されているのが、中勘助の『銀の匙』(岩波文庫)という自伝的小説です。

主人公の「私」は子どもの頃、東京の神田から小石川へ引越すことになりました。その新しい家では見るものすべてが新しく、嬉しくてしかたありません。その印象が身体的な実感を伴っていきいきと描かれています。

ゆずりはの木の「すべっこい葉をとって唇にあてたり、頬にこすってみたりする」、誰かが蟬をとってくれたが「そばへよるとあばれてぢゃんぢゃんいうのが怖かった」。家を建てている様子を見にいつ、「杉や檜の血の出そうなのをしゃぶれば舌や頬がひきしめられるような味がする。おが屑をふつくと両手にすくってこぼすと指の又のこそばゆいのも嬉しい」。

ただ「面白い」ではなく、その面白さを五感を通して味わいつくしている様子が伝わってきます。

子どもは、豊かさを感じる天才です。⁽⁶⁾ 私は幼い頃家で鯉節を削る担当だったのですが、しゅるしゅると薄い鯉節がかなかなから出てくる様子や、その香りが楽しくてたまりませんでした。それは子どもながらにとっても面白い仕事に遊びでした。遊びだからこそ、楽しくお祭り気分ですつとやっていたい。そして、それが豊かな時間となるのです。

(齋藤孝『生きることの豊かさを見つけるための哲学』より)

問一 傍線部(ア)(イ)(エ)(カ)のカタカナを漢字に改めなさい。また、傍線部(ウ)(オ)の漢字の読みを平仮名で書きなさい。

問二 傍線部(1)「自分の身体が感じ取るもの」について、同じ意味を表す言葉を漢字二字で、本文中より抜き出し答えなさい。なお、句読点や符号も字数に含むものとします。

問三 三箇所の

A

B

C

 に入る、最も適当な言葉を次の語群から選び、それぞれ答えなさい。

語群 一 感覚の古い 人間関係 一年の比重 査定社会 確認作業 一

問四 傍線部(2)「慣れることによつて失われること」は何ですか。本文中より二十字以内で、抜き出し答えなさい。なお、句読点や符号も字数に含むものとします。

問五 傍線部(3)「直近の六年間よりも断然長く感じられたはずです」の理由が書かれている段落の初めの五字を答えなさい。なお、句読点や符号も字数に含むものとします。

問六 傍線部(4)「私自身にもそのような記憶があります」について、「私自身の記憶」が書かれている部分の初めと終わりの五字を答えなさい。なお、句読点や符号も字数に含むものとします。

問七 傍線部(5)「身体的な実感」について、身体の中の部分が感じているか、具体的な身体の部分で、引用されている中勘助の「銀の匙」の本文から五箇所抜き出して答えなさい。(順不同)

問八 傍線部(6)「子どもは、豊かさを感じる天才です」について、その説明として最も適当なものを次の①～⑤から一つ選び答えなさい。

- ① 豊かさとは海外旅行ができるかできないということなどには関係なく、子どもはエッフェル塔もルーブル美術館も遊園地と同じように自分たちの遊び場として楽しむことができるから。
- ② 豊かさとは慣れるということ、子どもはガイドブックで多くの情報を得て、出来るだけ有意義な時間を過ごせるよう計画的に存分に充実感を感じることができるから。
- ③ 豊かさとはネット記事のコメント欄などを見て査定をして批評家スタンスをもつて視聴できることで、そのレベルまで今の子どもは楽しむことができるようになるから。
- ④ 豊かさとは初めてのことを自分の身体で感じ取ることができることであり、子ども時代にはそのような体験が多く、子どもはそれを祭り気分で楽しむことができるから。
- ⑤ 豊かさとは善悪の基準に縛られないので、子どもは自由にそりを作ったり蟬を捕ったりする中で、価値を新たに創造したりしながら感じる取ることができるから。

問題二 次の文章は「徒然草」の二百六段と二百七段です。どちらも徳大寺実基という鎌倉時代の公卿の逸話です。次の文章を読み、後の設問に答えなさい。

二百六段

徳大寺右大臣殿、檢非違使の別当の時、中門にて使庁の評定おこなはれける程に、官人章兼が牛はなれて、庁のうちへ入りて、大理の座のはまゆかの上にのぼりて、にれうちかみて臥したりけり。重き怪異なりとて、牛を陰陽師のもとへつかはすべきよし、各申しけるを、父の相国聞き給ひて、「牛に分別なし。足あれば、いづくへかのぼらざらん。厄弱の官人、たまたま出仕の微牛おののを取らるべきやうなし」とて、牛をば主(4)に返して、臥したりける疊をば換へられにけり。あへて凶事なかりけるとなん。(5)
〔怪しきを見て怪しまざる時は、怪しみかへりて破る〕といへり。(7)

二百七段

龜山殿建てられんとて、地を引かれけるに、大きな蛇、数も知らず凝り集りたる塚ありけり。注9この所の神なりといひて、ことのよしを申しければ、「いかにあるべき」と勅問ありけるに、「古くよりこの地を占めたる物ならば、さうなく堀り捨てられがたし」と、皆人申されけるに、この大臣一人、「王土注12にをらん虫(8)、皇居を建てられんに、何のたたりをかなすべき。鬼神注13はよこしまなし。咎むべからず。ただ皆堀り捨てべし」と申されたりければ、塚をくづして、蛇をば大井河に流してげり。さらにたたりなかりけり。

〔方丈記 徒然草 正法眼藏隨聞記 歎異抄〕新編日本古典文学全集44より

注1 徳大寺右大臣

徳大寺実基の息子

注2 別当

長官

注3 官人

下級の役人

注4 大理

検非違使の別当の中国名

注5 にれうちかみ

一度飲み下した食べ物を口中に戻してかみ直し飲み込み

注6 父の相国

徳大寺実基

注7 疋弱の官人

薄給の下級役人

注8 微牛

貧弱な牛

注9 凝り集まり

一カ所に集まり

注10 塚

土などが高く盛り上がった所

注11 勅問

天皇のお尋ね ここでは、後嵯峨上皇からのお尋ね

注12 王土

天皇が統治する国土

注13 鬼神

神霊

問一 傍線部(1)「官人章兼が牛はなれて」の格助詞「が」と同じ用法の「が」を使っている文を次から選び、番号で答えなさい。

① 雀の子を君が逃がしつる。

② 象潟や雨に西施がねぶの花

③ いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれてときめきたまふあり。

④ 見送りに来る人が中に藤原時実、長谷部幸雅ら追ひかけて来て、

⑤ 巳の時ばかりなりけるが、日も漸く暮れぬ。

問二 傍線部(2)は「重き怪異」とはどのようなことですか、本文中より五十字で抜き出し最初と最後の五字で答えなさい。なお、句読点も含むものとします。

問三 傍線部(3)を現代語訳しなさい。

問四 傍線部(4)「やう」(6)「あへて」の本文中の意味を答えなさい。

問五 傍線部(5)「主」(8)「虫」が指すものを文中より抜き出し答えなさい。

問六 傍線部(7)は徳大寺実基の逸話に対する感想です。この感想は二百六段、二百七段を通してのものだと思われます。次の問に答えなさい。

- 1 「怪しまざる」行為とはどういったものか、二百六段、二百七段からそれぞれ説明しなさい。
- 2 「怪しみかへりて破る」にあたる箇所を二百六段、二百七段からそれぞれ抜き出し答えなさい。

問七 傍線部(9)には、「係り結び」が用いられている。傍線部から「係り助詞」とその「結び」となっている語とをそれぞれ抜き出し答えなさい。

問八 二百六段、二百七段を通しての主人公ともいうべき徳大寺実基の人柄について説明したものとして最も適当なものを次の

①～⑤から一つ選び答えなさい。

- ① 武士が権力を握っていた鎌倉時代、天皇を中心とした都の代表として鎌倉の幕府と折衝し、天皇の力を示すためにも、古代からの言い伝えを守ろうとする人である。
- ② 貧しいものや弱いものに対して思いやりの情を持ち助けようと心を砕く人であり、牛や蛇などの生き物に対しても憐憫の情を持つて接することができる優しい人物である。
- ③ 決断を促されたときには、事の善し悪しよりも多くの人の意見を聞き、衆目の一致するところを見定めて皆の思いをまとめようとする政治家である。
- ④ 人の生活に役立つ牛を大切にし助けることはするが、人が嫌がり役に立たない蛇は捨てても良いとする実用主義的な考え方をする人物である。
- ⑤ 多くの人が不安にとらわれたり、誰もが古くからの考えに傾こうとするときに、一人であつても合理的なものの考えを持ち、冷静に行動できる知性の人である。

受験番号

問題訂正

「国語」

問題冊子10ページ問二の問題文

(誤)

五十字



(正)

五十字程度